

# A

ほっかいどう

# G

# 160

【ほっかいどう 愛護】発行 / 2010年12月1日 発行所 / 札幌市中央区北2条西7丁目かでのる2-7 4F TEL.(011)271-0228 発行者 / 北海道知的障がい福祉協会 会長 橋 文也



## Contents

### 「北海道障がい者条例」 今後と課題

- 1.北海道障がい者条例について ..... ④  
田中教授を訪ねた
- 2.今一度、北海道障がい者条例とは
- 3.北海道障がい者条例  
「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」  
活動状況

### 中央情報 ..... ⑥

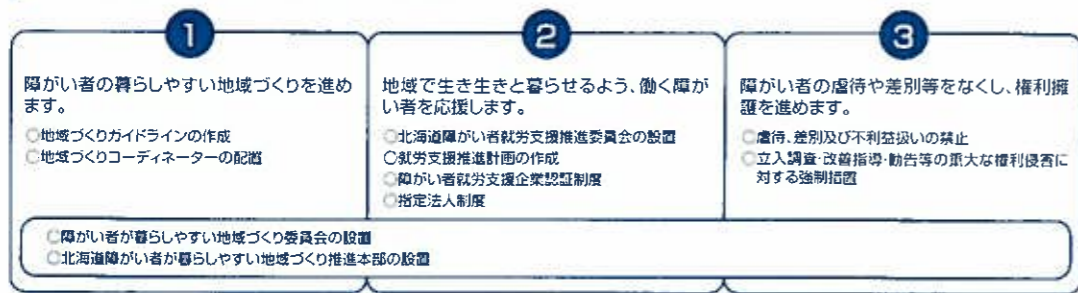
- 東西南北 / 福祉現場の人材確保 ..... ⑦  
一道北地方会の取り組み
- Information ..... ⑧



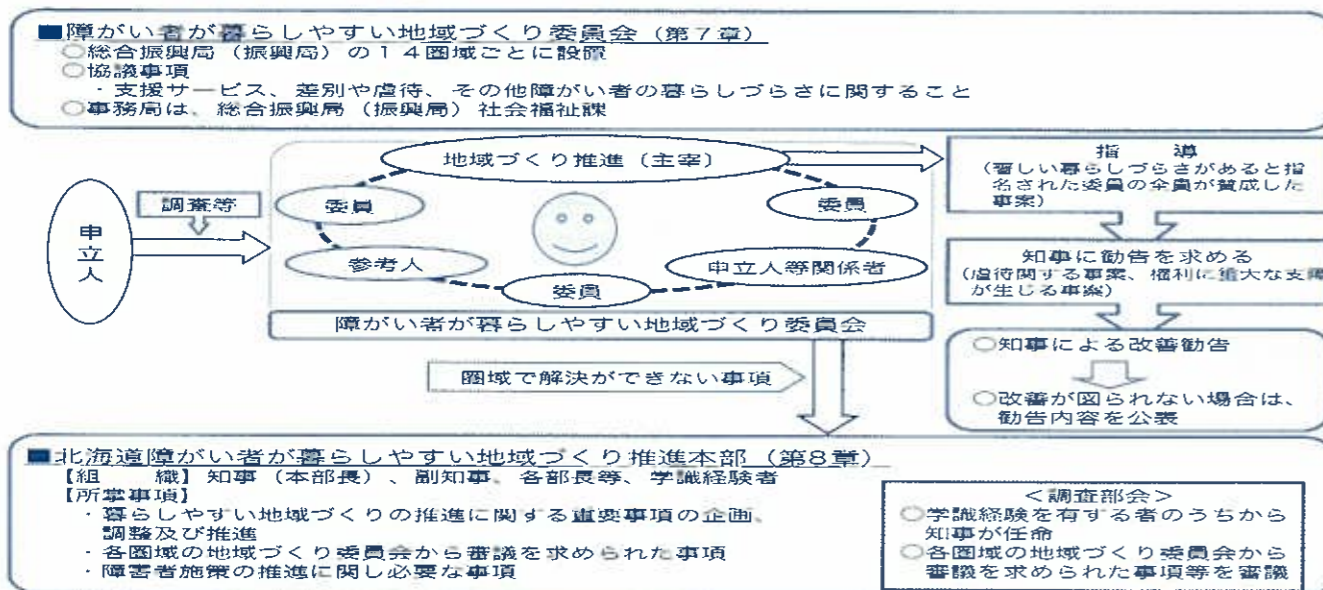
### ■施行に当たっての基本的考え方

- (1)障がい者の参画を基本とし、幅広い関係者や地域住民との対話を重視すること。
- (2)地域で暮らす障がい者が必要とする支援を確保する地域の体制作りを通して道内各地域の地域間格差の是正を資すること。
- (3)福祉の枠を超えて、幅広い関係者や関連する施策と連携・協働する取組を推進すること。
- (4)条例に基づく施策の実施状況や成果を広く道民に公表し、障がいや障がい者に対する道民の理解の促進を図ること。

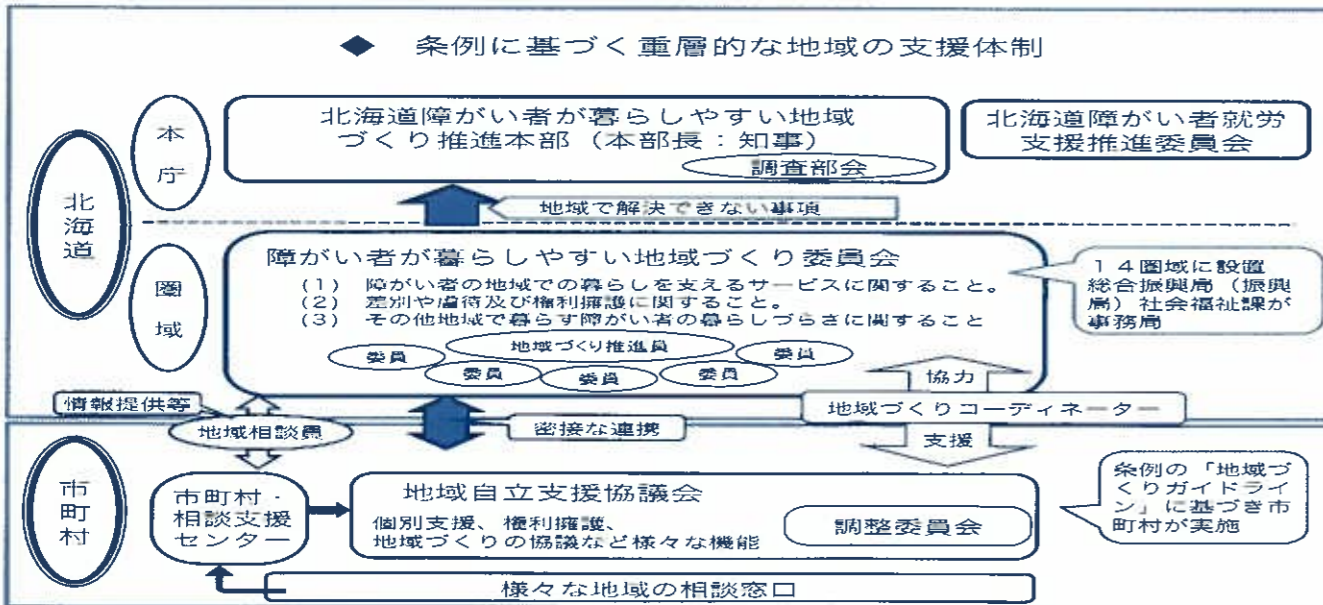
### ■「北海道障がい者条例」の主な施策



### ■条例の中にある「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」とは



### ■条例に基づく重層的な地域の支援体制



# 3. 北海道障がい者条例 「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」活動状況

条例に基づく重層的な地域支援体制として道内14の圏域に設置された「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」。その活動と現状について、渡島圏域・日高圏域委員会メンバーの尾形、山本両施設長からの報告!!

渡島圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員

尾形 永造  
(ワークセンター 一条)

日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員

山本 家弘  
(静内ペテカリの園)

渡島圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会はこれまで2回開催されました。

第1回目は、辞令交付のあと、渡島総合振興局担当者より地域づくり委員会の役割と手続きについての説明があり、続いて渡島圏域障がい者総合相談支援センターより、相談事例などの活動紹介、広域相談体制整備事業説明や障がい児者の現状、さらに地域自立支援協議会の内容や役割、設置状況についての説明がありました。

自立支援協議会に関しては、圏域の11市町村の中で、未設置が4町、設置されているが、ほとんど活動していない協議会も含まれているとの報告があり、地域で暮らす障がい者を取り巻く状況の厳しさや委員会の役割の重要性を再確認したところです。

第2回目では、昨年実施したタウンミーティングで出された意見を踏まえ、「サービスの現状と課題」を地域づくり委員会の地域課題として取り上げ、協議していくことになりました。具体的には、地域づくり推進員と事務局が各地域に出かけて行き、障がい者(団体)や福祉関係者(施設・サービス事業者・行政・ボランティア・町内会)と話し合っ、地域の現状と課題を拾い上げ、その結果を地域づくり委員会で協議することになりました。協議結果については、各市町の地域自立支援協議会などに通知して改善策について検討してもらおうことになります。今後の委員会活動に注目していただければと思います。

5月21日に日高合同庁舎で第一回地域づくり委員会が開催され、会議では「北海道障がい者条例と地域づくり委員会について」日高振興局の担当者からの説明と日高圏域障がい者総合相談センター長より「日高圏域における相談支援体制等の現状及び地域の抱える課題について」現状報告されていました。この後、委員に就任した10名より自己紹介と情報意見交換がなされ終了しました。

地域づくり委員会は「障がいを理由とした虐待や差別、様々な暮らしづらさについて解決を図っていく」という位置づけだが、第一回委員会以降、申し立てがないのか委員会を組織したとは聞いていない(事案によって3名以上の委員により地域づくり委員会が組織される)。

ただ、私が委員と言うことで知的障がい施設利用者の保護者から一件の苦情相談を受けている。この対応では施設側と保護者側の調整に電話で何度もやり取りして、調整で落ち着いたが、「待てよ、施設の苦情解決システムもあるよな」、「道の運営適正委員会に持ち込まないのかな」とか、いろいろ頭の中を駆けめぐった。細かい話だが相談に消費した時間や、電話料は法人が負担していることになるなど、いろいろなことが頭を過ぎりました。日高振興局担当者に報告したが、それだけで終わっている。

この相談体験を通して感じたことは、地域ではまだまだ「北海道障がい者条例」や「地域づくり委員会」への申立の仕方など知らないままなのではないでしょうか。



地域生活支援セミナー



優勝チーム 清水旭山学園

## 日本知的障害者福祉協会活動状況

北海道知的障がい福祉協会 会長 橘 文也

今や様々な情報がネット配信されて全国津々浦々に時間差なく渡り、知りたい事柄を得ることが出来ている中で、会員の皆様にお伝えするホットなニュースをこの紙面でお知らせするのは難しいと思いますが、日本知的障害者福祉協会、10月末日までの情報をお知らせ致します。

廃止となる自立支援法に基づく体系に強制的に移行せよという矛盾を追及しながら、新体系支援へ未だに移行出来ていない事業所や、移行している事業所からも声の上がっている障がい程度区分や、利用制限などの制度の改善を図って欲しい要望と、平成24年3月に終了する経過措置については、新たな法制度が施行されるまでの継続延長を求めています。

そのひとつは食事提供体制加算であり、就労継続支援B型の対象者要件などです。これらのことを、協議の中心として厚労省の担当者と、日本知的障害者福祉協会三役や政策委員との意見交換をしています。

先日開催した日本知的障害者福祉協会の全国会長・事務局長会議で厚生労働省課長から、現時点でお答えできるものとして、平成25年8月までに示されるであろう新制度と、自立支援法における体制とは、水と油的なものにはならないと思うので、体系移行は変わらず推進していく。また、平成22年度補正予算として、特例基金の積み増しを計上しているが、この予算を新体系移行充実のための取り組みに、都道府県毎に強弱を感じていることから、配

分を一律でなくニーズの強いメニューに地域の枠を越えた形で、考えていきたいとのことであった。

このことから本会としても近々、北海道に協議をお願いして、道内知的障がい児・者福祉支援の充実のために、必要な環境整備等に予算が獲得出来るよう早急に、要望活動を行いたいと思えます。

いずれにせよ新しい法制度がどの様になるかが、現在支援を受けている利用者が路頭に迷うことの無いように、施設・事業所の管理者、支援スタッフの更なる支援力アップの学習が大いに必要です。本会として求められる研修事業等には積極的に取り組んで行きます。みなさんの提案など、お待ちしております。

## 総合福祉部会に毎月参加しています。

北海道知的障がい福祉協会 副会長 光増 昌久

55人の構成員(法律で決まっていなから委員でなく構成員なんです!)の一人として毎年4月から参加しています。推進本部の首相をはじめ大臣も構成員なんですよ!

当初は担当大臣は福島さんでした。福島さんから任命書をいただきました。いつも熱のこもった挨拶をしておられました。道半ばで退かれたのは心残りだったと思います。

毎月、厚生労働省の講堂で開催されています。傍聴者も毎回200人はいるのでしょうか。時間がある方は、厚生労働省のYouTubeで動画が見られます。雰囲気味わってみてください。

55人の意見を調整する部会長は佐藤久夫さん、参加者の意見をいかに平等に取り上げるのがこれまた困難で大変です。一斉に何人も挙手をするので、当てるのも大変です。一回しゃべった人は、なかなか当てられません。

事前に論点整理が提示され約2週間前に意見書を提出します。ワードとルビ入りの資料を送ります。数日前に当日の資料がメールで届き、これを見て参加するわけです。

総合福祉部会には、二人の知的障がいのある当事者が参加しています。彼らにどのようにわかりやすく情報を伝えるかが難しいところです。推進会議

の土本さんの提案でイエローカードの使用が承認されています(最近、赤、黄、青の三色カードも導入)。

さらに彼らは、文字でも確認にできるように要約筆記のモニターを見ながら論議に参加しています。

部会は、10月から作業チームの論議が始まります。3ヶ月の論議をするチームと、推進会議との合同部会で「障害児支援」、「就労」、「医療」(前半は精神障害)の6ヶ月論議するチームに分かれます。目標は8月に骨子提案をする予定です。

## 福祉現場の人材確保

一道北地方会の取り組み…日向地方会長に聞く

いま、福祉現場での人材確保は、重要課題となっており支援の現場に大きな影を落としています。また、学生たちが、福祉業界への就職を避ける現状の中、この状況を打開すべく地方会としてこの問題を深刻にとらえて、今後の福祉への魅力を伝えることを目的に、道北地方会の取り組みをご紹介します。

道北地方会内では、人材確保については、「新体系に移行したくても職員が確保できない」、「職員の応募がなく、新年度体制がなかなか組めない」、「年度途中で職員補充が利かない」、「職員の定着率が悪い」などの声が地方(過疎町村)の施設・事業所から聞こえてきました。

また、最近では、「採用しても良い人材が来ない」、「退職するのを見込んで多く採用する」、「応募してくる者を採用するしかない」、「応募の絶対数が少なく、選ぶ余裕すらない」などの状況が都市部の施設・事業所からも聞かれるようになってきました。

この現状を打開する為、何か地方会としてアクションを起こさなければならぬと思立ち、地方会所属事業所が全て掲載されたパンフレットの作成と、人材発掘の職場ガイダンスへの参加を北海道の「福祉・介護人材確保緊急支援事業」の補助金を活用して、実施し

ました。そして、福祉の仕事を目指す若者の増加を目的に「高校生向けの福祉フォーラム」を、社団法人北海道知的障がい福祉協会の助成を受けて開催しました。また、福祉系の専門学校と連携して、「福祉のしごと」を伝えることを目的に計画を推進しました。

なお、事業所パンフレットについては、各専門学校、高校等に配布しましたが、特に高等養護学校や相談支援を行う事業所からは、「進路指導や事業所紹介に利用価値が高い」と意外なところからも、評価がありました。

しかし、福祉フォーラムの開催に向けては、どのように集客をするかで思案し、1回目は、学生の集客を図るため、福祉サークルのある学校から代表者を登壇させることで、部員等の集客を確保し、2回目は、人気と実力のある高校吹奏楽部を招聘することで集客力の向上を図り開催をしました。

福祉フォーラムの開催は一応の成果を挙げたと考えるが、今後は高校生だけではなく、中学生や小学生からも体験学習などを受け入れて、早い段階から福祉の仕事に興味や関心を持ってもらう取り組みが必要であると感じています。

また、都市型の事業所と、地方型の事業所で求人の事情が違うと思うが、平成24年3月期の移行期限に向けて人材の不足が予想されるため、地方会等が一致団結をしないと取り返しのつかないことになると予想されることから、このまま手をこまねいている場合ではなく、現状を重く捉え、対策を講じる必要性を感じています。

私の同期に何人かの高校、中学の教員がいるが、学校の中においても「福祉の仕事回避する傾向がある」と漏れ伝わってきます。

福祉の現場の「素晴らしさ」、「やりがい」、「重要性」を若者に伝え届け、次世代を担う人材を数多く育成する必要があり、各事業所が出前講座なども行い、福祉の仕事に魅力があることの啓発を行い、人材の確保を行っていかねば、障がいのある当事者の人々を支えることなどが、困難になってくるのではないのでしょうか。

最後に、われわれ事業所側も、積極的に行動して、いままでのように、実習生の受け入れ等の受け身だけの姿勢ではなく、出前講座など積極的に行動して、人材を養成・確保していかなければならないと感じています。

日向透地方会長談

**参加者の声**

1回目は福祉の知識を深めるため行われていたが、2回目のフォーラムでは、色々な施設・事業所の方や高校生が参加して実際の現場での取り組みの一場面を見ることができた。

福祉とは、支えてあげるというイメージでしたが、音であったり、笑顔、頑張る姿で自分も支えてもらっていると感じた。

1回目のフォーラムは、福祉に対してどのような考えを持っているのか話し合うという目的のフォーラムで2回目は、1回目と趣向を変えて、音楽を取り入れて会場にいるみんなが楽しめる雰囲気であり、福祉には、大変な部分だけでなくこのような楽しめることもあるということを知った。



フォーラム・福祉を伝えるものは

# information 平成22年12月～平成23年3月

事業名	実施期日/会場	内容
特別研修Ⅲ	平成22年12月20日(月)	講義Ⅰ「第三者評価」吉村信義(福祉サービス評価機構Kネット事務局長) 講義Ⅱ「公益法人改革の今後」板垣洋公認会計士 講義Ⅲ「雇用管理」高橋一穂(介護労働安定センター雇用管理コンサルタント 特定社会保険労務士)
幹部職員研修	平成23年1月14日(金)・15日(土) 札幌/ホテルライフォート	講演「福祉現場のマネジメント(仮題)」小林雄二郎(エイデル研究所経営支援・人材育成統括部福祉経営支援部長) グループ討議「福祉現場における幹部職員の役割」
現任職員研修	平成23年2月2日(水)・3日(木) 札幌/ホテルライフォート	講演Ⅰ「走らず、少し休んでみませんか」蓬萊和裕(社会福祉法人ゆたか会希望の郷施設長) 対談「最前線のみなさんに伝えたいこと」蓬萊和裕 近藤弘子(特別養護老人ホームつれづれの郷施設長) 講演Ⅱ「職場の良好な人間関係の構築について～健康な心を保って明るい支援を」渡部正行(札幌市保健福祉局医務官)
施設長研修会	平成23年3月23日(水)・24日(木) 札幌/ガーデンパレスホテル	講演佐藤久夫(日本社会事業大学教授 推進会議構成員 推進会議総合福祉部会部会長) 種別分科会、ほか未定

## みんなあーと2010

### 展示部門

- 応募/376点 (490人)
- 入選/117点
- 受賞作品

みんなあーと大賞……………「きれいな色」得能サチ子  
北海道知的障がい福祉協会会長賞…「美唄特産 爽やか弁当」爽やかネットワーク  
北海道共同募金会会長賞……………「車」国井 勇  
審査員特別賞……………「パワースポット」笹川 勝  
「東京タワー」石川美由紀  
「粘土 de 敏裕」平瀬敏裕  
「かわいい赤ちゃん」坂下信八  
奨励賞……………「北の大地」長谷川久元  
「サクラ」三沢 隆  
「龍鳳凰百花文様図」酒井理英子  
かでるチャンピオン……………「アルミ完璧画」おんべつ学園



### ステージ部門

- 出場/20組 (283人)
- 受賞作品

グランプリ……………ヒップフレンズ  
北海道知的障がい福祉協会会長賞…心太鼓  
北海道共同募金会会長賞……………詩舞 育子会  
審査委員特別賞……………color-connection・札幌を盛り上げるサークルあっぱれ!!!・ハッピーフレンズ  
あいのさとアクターズ・おおきなかぶをぬくぞ～ず  
奨励賞……………育成太鼓・弥生中学校太鼓部



### 特別表彰

船橋好江・高松隆宣